
令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果の概要

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

令和7年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

1 実施概要

(1) 実施日 令和7年4月17日(木)

(2) 対象学年

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(3) 実施教科

①教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕

※中学校理科は、文部科学省 CBT システム (MEXCBT) によるオンライン方式 CBT (Computer Based Testing) で実施

②生活習慣や学習環境等に関する質問調査

・児童生徒に対する調査、学校に対する調査(いずれも Web による回答)

(4) 実施校数 悉皆調査

	参加学校数	調査実施校数	
		17日に調査を実施した学校数	18日以降に調査を実施した学校数
市町立小学校	216	216	0
義務教育学校(前期課程)	2	2	0
特別支援学校(小学部)*	3	2	0
市町立中学校	93	91	2
義務教育学校(後期課程)	2	2	0
県立中学校	3	3	0
特別支援学校(中学部)	3	3	0
公立学校計	322	321	

*前年度に3校の参加申請があったが、調査当日に対象児童が在籍しない学校が1校あったため、2校となった。

2 教科に関する調査の結果の概要(公立)

○各教科における本県と全国の平均正答数と平均正答率(%)、平均IRTスコア

	教科	平均正答数/設問数			平均正答率		
				全国との差			全国との差
小学校	国語	本県	9.2/14	-0.2	本県	65	-1.8
		全国	9.4/14		全国	66.8	
	算数	本県	9.1/16	-0.2	本県	57	-1.0
		全国	9.3/16		全国	58.0	
	理科	本県	9.6/17	-0.1	本県	56	-1.1
		全国	9.7/17		全国	57.1	
中学校	国語	本県	7.3/14	-0.3	本県	52	-2.3
		全国	7.6/14		全国	54.3	
	数学	本県	7.0/15	-0.2	本県	46	-2.3
		全国	7.2/15		全国	48.3	
	理科				平均 I R T スコア		全国との差
					本県	498	-5
全国					503		

IRT (Item Response Theory:項目反応理論)

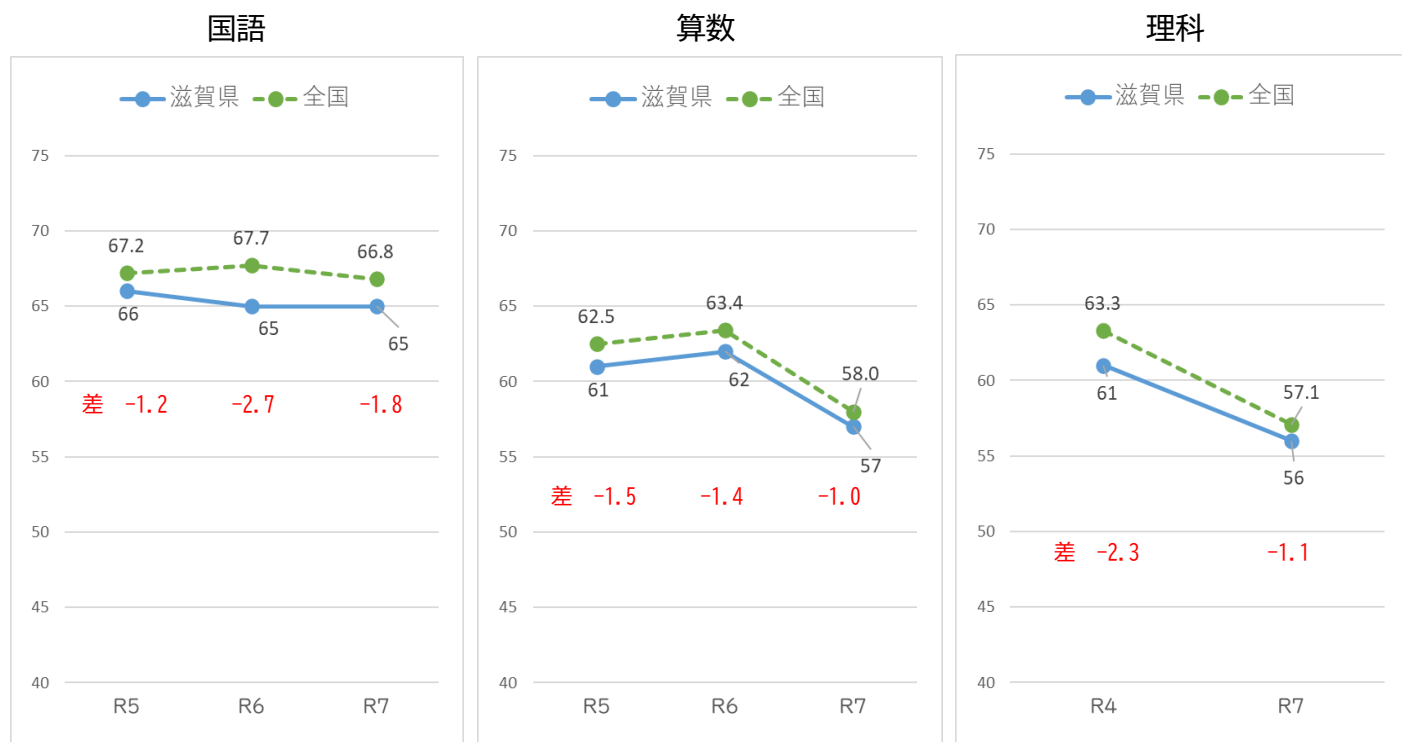
児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

IRTスコア

IRTに基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

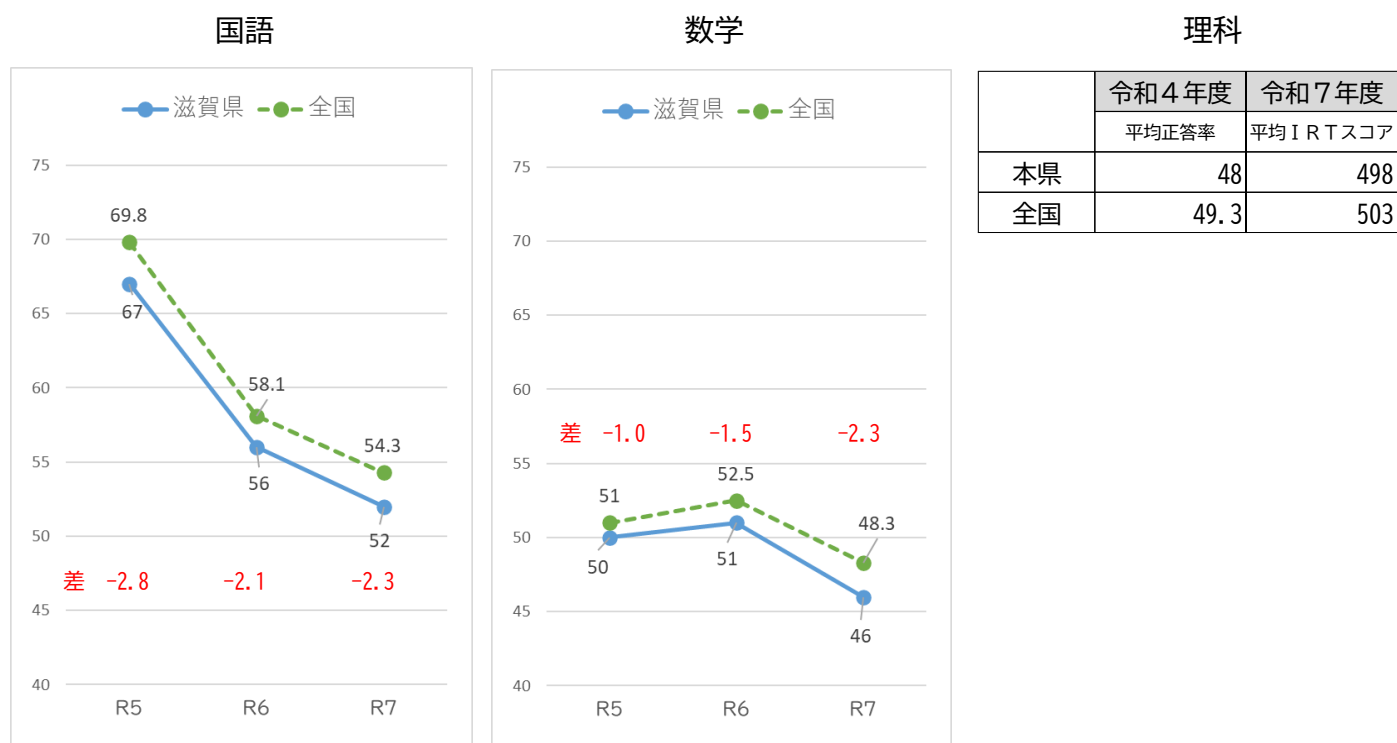
○ 全国学力・学習状況調査の平均正答率の推移

【小学校】＜平均正答率の経年変化＞



※理科は3年に1回実施
(前回調査は令和4年度)

【中学校】＜平均正答率の経年変化＞



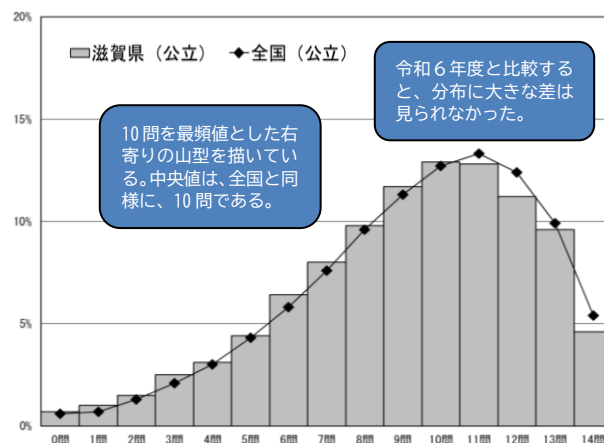
【国語】

◆本県の児童の状況を分析すると…

- 学年別配当表に示されている漢字を文の中で正しく使えるかどうかをみる設問について、昨年度は全国平均を3.3%下回っていたが、今年度は0.9%上回った。
- 全国と比較すると、「読むこと」の領域においては、文章を読んで内容を理解し、要旨を把握することと比べて、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付けることに課題が見られた。
- ・資料を読み、自分が納得したことについて理由を明確にして書く設問の平均正答率が52.6%であり、全国平均を3.7%下回った。

小学校

◆正答数分布のグラフに着目すると…



■各設問を「読み解く力」の視点で分析すると…

「書くこと」の設問では、図表やグラフを用いるなど書き表し方の工夫について理解できていた。

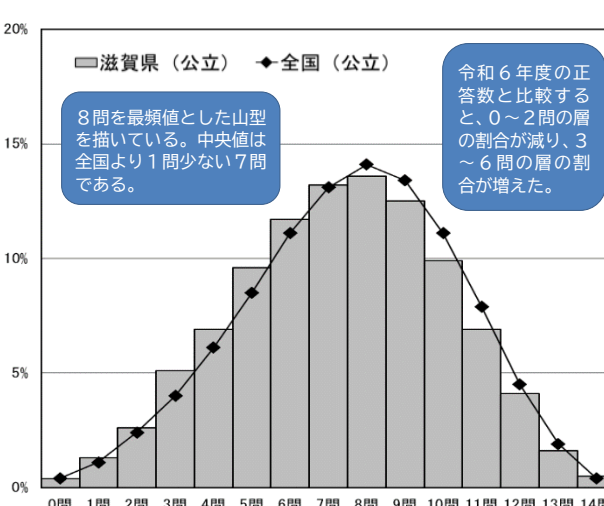
「読むこと」の設問では、目的に応じて、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付けたり、資料を読んで考えたことを他の資料に書かれていることと結び付けたりして捉えることに課題が見られた。

◆本県の生徒の状況を分析すると…

- 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる設問における平均正答率は81.7%であった。同様の設問における全国平均との差は、昨年度の2.3%から0.8%に縮まった。
- 全国と比較すると、「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率には大きな差は見られないが、「読むこと」の領域では、特に、文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えることに課題が見られた。

中学校

◆正答数分布のグラフに着目すると…



■各設問を「読み解く力」の視点で分析すると…

「話すこと・聞くこと」の設問では、スピーチにおいて、相手の反応を踏まえながら、自分の考えを分かりやすく伝える表現の工夫を捉えることができていた。

「読むこと」の設問では、二つの場面について、展開が異なることでどのような効果があるのか、自分の考えを文章の内容を適切に取り上げて説明することに課題が見られた。

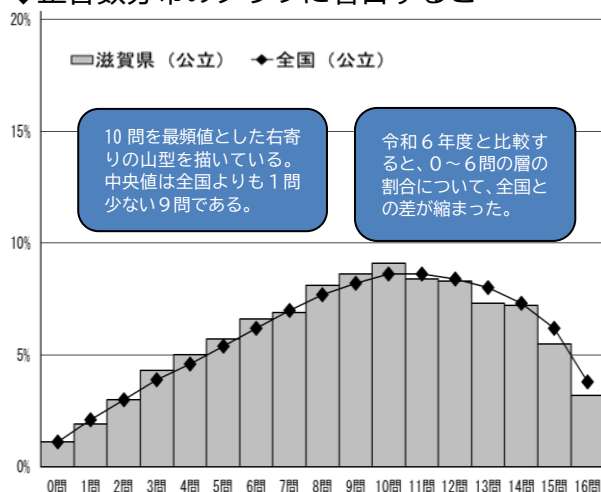
【算数・数学】

小学校

◆本県の児童の状況を分析すると…

- 「図形」の領域における平均正答率は55.7%であり、全国平均を0.5%下回ったが、昨年度と比べると、全国平均との差は1.1%改善された。
 - ・台形の意味や性質、角の大きさについて理解しているかどうかをみる設問では、全国平均をそれぞれ0.9%、1.0%上回った。
- 「変化と関係」の領域における平均正答率は54.9%であり、全国平均を2.6%下回った。
 - ・「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表す設問では、全国平均を4.0%下回った。

◆正答数分布のグラフに着目すると…



■各設問を「読み解く力」の視点で分析すると…

「変化と関係」の領域において、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができていた。

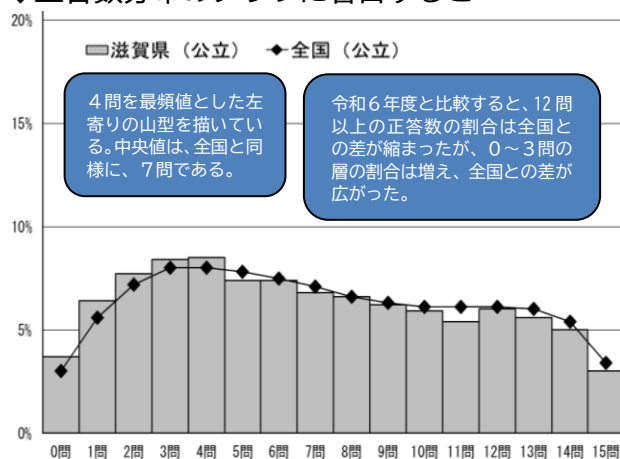
「数と計算」の領域において、数を構成する単位に着目し、小数や分数の計算の仕方について統合的・発展的に考察することに課題が見られた。

中学校

◆本県の生徒の状況を分析すると…

- 小学校6年時の令和4年度調査(算数)と比べると、「数と式」および「図形」の領域における全国平均との差が改善された。
 - ・数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる設問では、全国平均を0.3%上回った。
- 「関数」の領域における平均正答率は45.6%であり、全国平均を2.6%下回った。
 - ・走行距離と運賃の関係から、グラフなどを用いて、新しい駅までの運賃がおおよそ何円になるかを求める方法を説明する記述式の設問では、全国平均を3.5%下回った。

◆正答数分布のグラフに着目すると…



■各設問を「読み解く力」の視点で分析すると…

「関数」の領域において、事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができていた。

「図形」の領域において、統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することに課題が見られた。

【理科】

小学校

◆本県の児童の状況を分析すると…

- 令和4年度と比べると、全ての領域において全国の平均正答率との差が縮まった。
- ・観察、実験において扱う器具や機器などを適切に操作する技能が身に付いているかどうかをみる設問では、全国平均を2.7%上回った。
- 記述式の問題における平均正答率は41.7%であり、全国平均を3.5%下回った。
- ・実験結果を基に結論を導いた理由を表現することや、差異点や共通点を基に新たな問題を見だし表現することに課題が見られた。

◆正答数分布のグラフに着目すると…



■各設問を「読み解く力」の視点で分析すると…

粒の大きさによる水のしみ込み方の違いを調べる実験方法を発想する際、資料から必要な情報を読み取り、必要な条件について分析・整理することができていた。

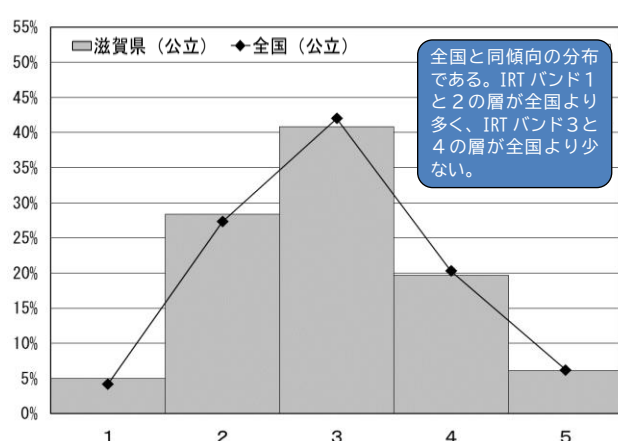
種子の発芽の条件について調べた実験結果から、他者の気づきを基に、新たな問題を見だし、その内容を適切に表現することに課題が見られた。

中学校

◆本県の生徒の状況を分析すると…

- 回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識が身に付いているかどうかをみる設問では1.4%、気体の密度の大小関係を分析して解釈する設問では2.4%、全国の平均正答率を上回った。
- 記述式の問題は、平均正答率が低く、課題が見られた。
- ・全員に共通する問題では、疑問を解決するための課題を記述する設問において、平均正答率が39.9%であり、全国平均を6.3%下回った。

◆IRTバンド分布グラフに着目すると…



■各設問を「読み解く力」の視点で分析すると…

実験の動画を見て、実験の様子と既習の知識や技能を関連付けたり、結果を分析・解釈したりすることができていた。

身の回りの事象から生じた疑問や見だした問題を解決するために課題を設定し、表現することに課題が見られた。

3 質問調査のポイントおよび結果の概要

【ポイント】

○児童生徒質問調査

- ・質問項目数は、小学校 71 項目（昨年度より 8 問増）、中学校 72 項目（昨年度より 7 問増）となった。
- ・教科調査「中学校理科」を CBT で実施することを受けて、生徒質問調査においても MEXCBT の機能を生かし、一部の項目をランダム方式で試行実施された。
- ・児童生徒の ICT を活用する自信と学力との関係等について、よりきめ細かに把握できるよう項目が充実された。

○学校質問調査

- ・質問項目数は、小学校 84 項目（昨年度より 8 問増）、中学校 84 項目（昨年度より 4 問増）となった。
- ・特別な配慮を必要とする児童に関する質問項目が追加された。
- ・また、初めての取組として、調査の実施後に、学校に対する追加的なアンケートを実施し、長期欠席者、特別な教育的支援を必要とする者、外国人等の実態の把握が行われた。

【結果の概要】

(1) 「第Ⅲ期 学ぶ力向上滋賀プラン」における 3 つの視点に関する質問項目等

各質問項目に対して、4 つの選択肢の中から肯定的な回答（「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「よく行った」、「どちらかといえば行った」等）を選択した割合（％）を示した。

① 視点 1 「子どもたちが主体の授業づくり」

質問項目	校種		R 6 調査	R 7 調査	前回調査との比較
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。 [児童生徒質問]	小	本県	80.8	81.7	+0.9
		全国	80.7	81.7	+1.0
	中	本県	77.1	75.8	-1.3
		全国	78.6	77.5	-1.1
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。 [児童生徒質問]	小	本県	81.1	78.9	-2.2
		全国	81.9	80.3	-1.6
	中	本県	78.2	74.4	-3.8
		全国	80.3	77.7	-2.6
授業では、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。 [児童生徒質問]	小	本県	83.7	83.1	-0.6
		全国	84.3	83.4	-0.9
	中	本県	78.9	77.0	-1.9
		全国	80.9	79.3	-1.6
言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて学校全体として取り組んでいますか。 [学校質問]	小	本県	96.8	98.2	+1.4
		全国	96.0	96.3	+0.3
	中	本県	89.7	95.0	+5.3
		全国	94.2	94.7	+0.5

② 視点2「学びを支え合う集団づくり」

質問項目	校種		R 6 調査	R 7 調査	前回調査との比較
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。 〔児童生徒質問〕	小	本県	89.2	91.6	+2.4
		全国	89.9	92.2	+2.3
	中	本県	88.7	91.1	+2.4
		全国	90.4	92.2	+1.8
将来の夢や目標を持っていますか。 〔児童生徒質問〕	小	本県	80.5	81.0	+0.5
		全国	82.4	83.1	+0.7
	中	本県	63.5	64.5	+1.0
		全国	66.3	67.5	+1.2
人が困っているときは、進んで助けていますか。 〔児童生徒質問〕	小	本県	93.1	94.1	+1.0
		全国	92.7	93.7	+1.0
	中	本県	88.5	88.9	+0.4
		全国	90.1	90.9	+0.8
学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。 〔児童生徒質問〕	小	本県	86.3	85.0	-1.3
		全国	86.3	84.9	-1.4
	中	本県	83.5	82.1	-1.4
		全国	86.1	84.7	-1.4
学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を合意形成できるような指導を行っていますか。 〔学校質問〕	小	本県	92.3	96.4	+4.1
		全国	94.2	94.9	+0.7
	中	本県	85.6	87.0	+1.4
		全国	94.0	94.2	+0.2

③ 視点3「協働して取り組む学校づくり」

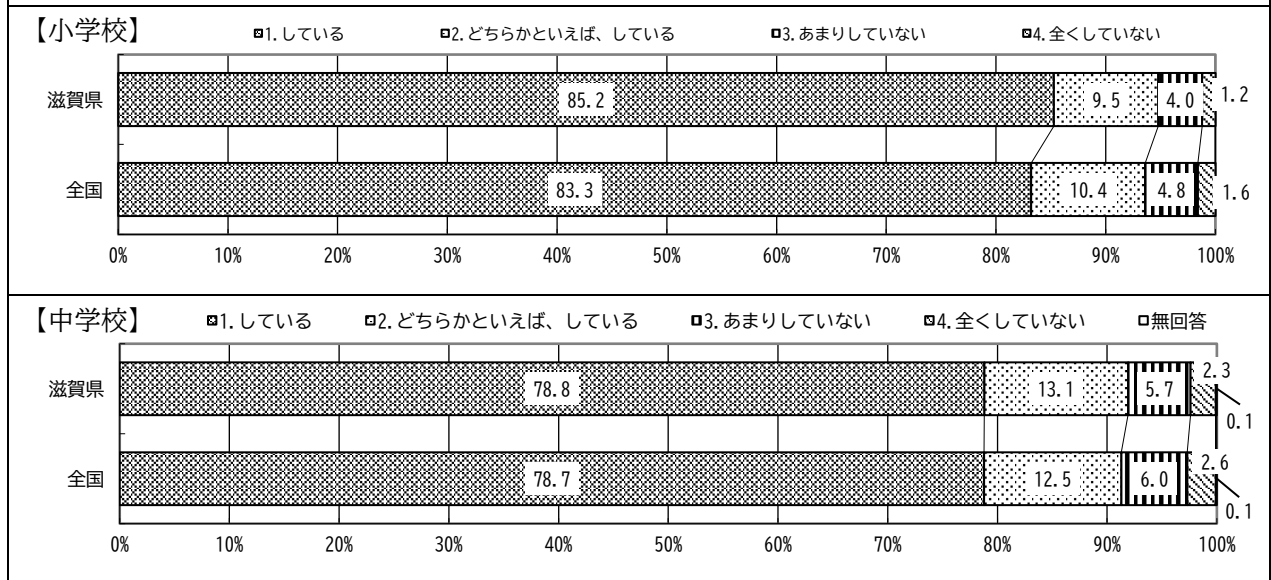
質問項目	校種		R 6 調査	R 7 調査	前回調査との比較
児童〔生徒〕の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。 〔学校質問〕	小	本県	95.9	96.3	+0.4
		全国	97.0	97.1	+0.1
	中	本県	95.8	94.0	-1.8
		全国	96.5	96.0	-0.5
近隣等の中学校〔小学校〕と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。 〔学校質問〕	小	本県	65.4	64.6	-0.8
		全国	64.0	65.3	+1.3
	中	本県	58.8	66.0	+7.2
		全国	69.0	71.7	+2.7

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか。 [学校質問]	小	本県	91.4	94.1	+2.7
		全国	88.9	93.3	+4.4
	中	本県	82.9	91.0	+8.1
		全国	84.1	89.0	+4.9
家庭学習について、生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか。 [学校質問]	小	本県	88.2	92.2	+4.0
		全国	89.7	90.6	+0.9
	中	本県	77.3	85.0	+7.7
		全国	84.0	85.9	+1.9

(2) 児童生徒の基本的な生活習慣および学習習慣に関する質問項目（児童生徒質問）

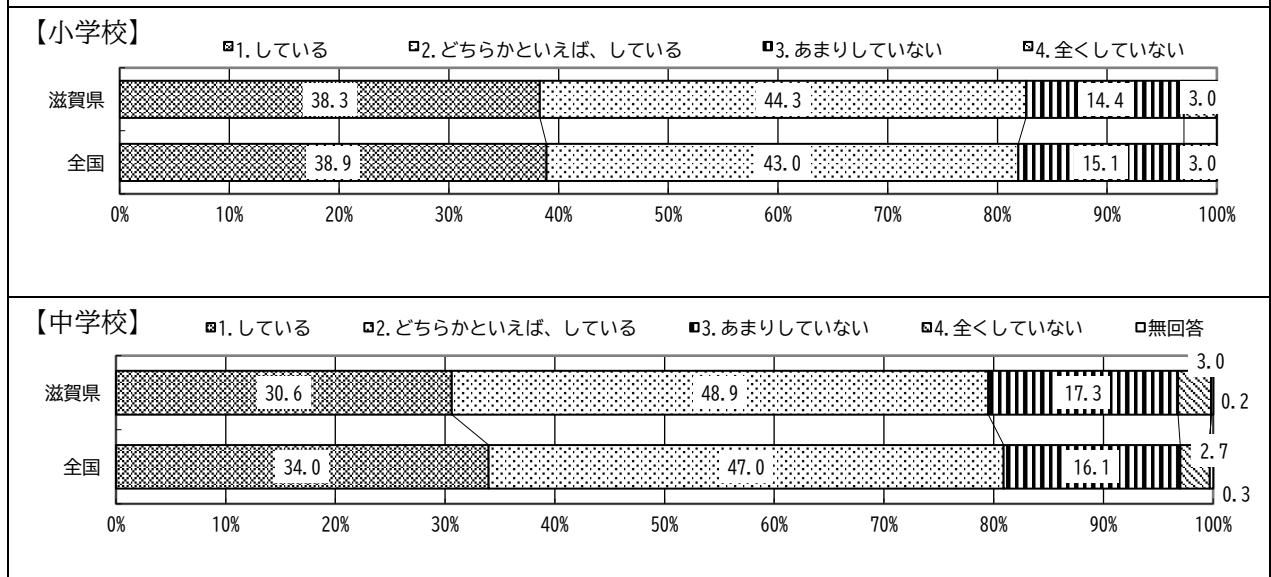
○朝食の摂取

朝食を毎日食べていますか。



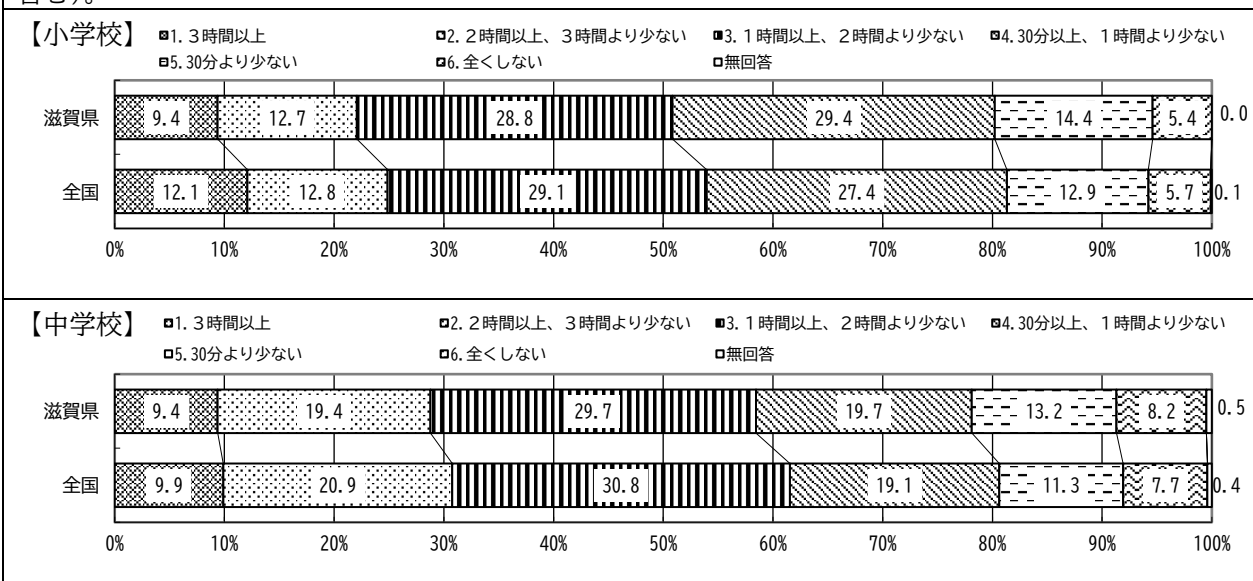
○就寝時刻

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



○家庭学習の時間

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。



（3）授業における児童〔生徒〕一人一人に配備された学習用端末の活用について

各質問項目から、授業におけるＩＣＴ機器の活用場面の程度に関する項目を抽出し、選択肢の中から肯定的な回答（「ほぼ毎日」、「週３回以上」）を選択した割合（％）を示した。

項目	校種		R 6 調査	R 7 調査	前回調査との比較
授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使用しましたか。＊ 〔児童生徒質問〕	小	本県	52.8	66.6	+13.8
		全国	59.5	71.7	+12.2
	中	本県	56.6	68.2	+11.6
		全国	64.4	76.5	+12.1
児童〔生徒〕一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、授業でどの程度活用しましたか。＊ 〔学校質問〕	小	本県	94.1	97.3	+3.2
		全国	93.2	96.6	+3.4
	中	本県	83.5	89.0	+5.5
		全国	90.8	94.5	+3.7
児童〔生徒〕が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等） 〔学校質問〕	小	本県	78.7	73.6	-5.1
		全国	76.6	72.9	-3.7
	中	本県	60.9	69.0	+8.1
		全国	70.4	71.2	+0.8
児童〔生徒〕が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面 〔学校質問〕	小	本県	55.0	47.8	-7.2
		全国	55.1	52.2	-2.9
	中	本県	49.5	51.0	+1.5
		全国	51.9	52.3	+0.4

教職員と児童〔生徒〕がやりとりする場面 〔学校質問〕	小	本県	53.7	60.9	+7.2
		全国	59.7	61.4	+1.7
	中	本県	51.6	56.0	+4.4
		全国	57.4	55.9	-1.5
児童〔生徒〕同士がやりとりする場面 〔学校質問〕	小	本県	40.0	43.6	+3.6
		全国	45.0	46.3	+1.3
	中	本県	45.3	29.0	-16.3
		全国	41.1	39.3	-1.8
児童〔生徒〕が自分の特性や理解度・ 進度に合わせて課題に取り組む場面 〔学校質問〕	小	本県	51.3	46.8	-4.5
		全国	52.8	51.0	-1.8
	中	本県	34.0	40.0	+6.0
		全国	42.2	41.2	-1.0

* R 6の選択肢で「ほぼ毎日」となっていたものが、R 7は「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」、「ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業）」に分けられた。